

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討 報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 9 月 23 日（日）14:00～15:00

場 所：佐賀県みやき町 コミュニティーセンターこすもす館

発表者：意見発表者

○住民（1 番）

吉野ヶ里町から来ました●●と申しますが、実はこの住民の意見聴取と言うのは新聞ですね、昨日、一昨日、しかも小さな囲みで載っかった、それで初めて知ったんです。それで、私も小石原川ダムについてはいろいろ疑問を持っていたんですが、その今まで集めていた資料もまだ見る暇も集める暇もない、と言う状況で来ました。従ってここにある厚いのは今見た訳ですし、それから今日喋る用紙も受け付けてから、私も本当に発表が出来るかどうか分からんで来て、そしてこの場で用紙を書いて出しました。しかも私は、筑後川から水道水は取っておりますけど別に利害関係は何もありません。それから、川とかダムの専門家でもありませんので一住民として、しかも素朴な意見になると思いますが申し上げたいと思う訳です。

大まかに言うと私が申したい事は三項目ですが、一つは佐賀県にとって本当にこのダムは必要だろうか、要らないのではなからうかという事です。と言うのは、私たちの直ぐ隣の神埼市には城原川ダムが出来た事になっておりますが、そのダムについてはですね水は要らんとする、それで計画としても洪水調節だけになっています。それで知事さんが穴あきダムを提案するような状況です。神埼市は筑後川の下流域の町でもあります。それからもう一つの下流域の町として佐賀市がありますが、佐賀では嘉瀬川ダムが出来たんですが、嘉瀬川ダムの水も佐賀市は要らないと言って、嘉瀬川ダムには参画しなかったようですね。そう言う状況で何で小石原川ダムからの水を貰うようにせんといかん、というふうに疑問を持つ訳です。異常湧水と言うのがありますが、異常湧水っていうのをこれは完全に備えればこれはとてつもない水、ダムが要ると思うんですが、そう言う事で佐賀にとっては水は要らないのではないかとするのが私の素朴な意見の第一です。

第二の意見は、福岡にとっても本当にこのダムが要るだろうか。私の所では城原川ダムとか、それからもう一つは那珂川水系の、吉野ヶ里町ですから五ヶ山ダムの計画がありますが、そう言う事があっていろいろ考えさせられているんですが、とにかく福岡市が水が足らなかったのは昭和 53 年で、もうかなり期間が 30 年以上たっている。その間にはどうも福岡市は水対策がかなりもう出来ているように思いますし、それからどうも福岡市の水道の利用状況を見ても上昇している様子もない。それから人口が増えている様子もない。それなのにどうも小石原川ダムの一つの目的は福岡地区にあるようですけど、どうも私にはそれが分からないと言う事です。

私の申したい事はとにかく佐賀県にとっても水は要らないし、どうも福岡県にとっても小石原川ダムは不要ではなからうかと言う事を申し上げたかったわけでございます。どうも失礼しました。

○住民（2 番）

わたくしは、土地改良事業を関係している任意団体の●●と申します。

平成10年度にですね、水資源機構、当時は水資源開発公団っていったんですけども、筑後川下流用水事業が完成しまして、筑後大堰地点から、福岡・佐賀の農業地帯にですね、両岸に農業用水が一括して、取水されまして、配水するようになっています。それまでは筑後川沿川のですね、農地というのは、有明海の満潮時に遡上する、河川水、アオというんですけども、あれを、アオを灌漑用水として、利用している、利用しながら、営農が営なまれておりました。

しかしながら、今日ですね、灌漑期に筑後川上流、干天（かんてん）が続けば、河川水が激減しまして、2年に1回程度ですね、福岡・佐賀の農業団体、あるいは両県の方を含めましてですね、渇水調整を開いております。今年も6月中旬は、丁度、取水期になって、非常に筑後川の流量というのが減りまして、まさしく渇水調整を、2度ほど会議をやったんですけども、途中から、下旬から大雨がありましてですね、この渇水調整は解消できております。

冬場についてはですね、瀬の下40m³/sというのが、良く聞くのんですけども、下笠・松原のですね、再開発によって、不特定用水というのが確保されている。ただ、非ノリ期って言うんですか、これは確保されていません。これまでの説明のありました小石原川ダムによってですね、不特定用水が、まあ1千万トン以上確保されるということにつきましては、下流域としては、下流域でですね、農業をする我々としては、大いに期待をしているところでございます。

ただ、小石原川ダムの建設位置というのが、江川ダムの上流に建設されるということになっております。江川ダムの集水面積というのが30km²しかございません。まあそういうことから、これを見てもみますと、佐田川の方からですね、木和田導水路ということで、江川ダムのほうに導水されるという計画になっております。小石原川ダム自体もですね、流域というのが20km²しかございません。そこに4千万トンという水というのは、だいたい年間2,000mmが全部入ってきて4千万トンしかないものですから、多分貯まらないだろうという気がしております。

そういうことから、以前聞いたことがあるのんですけども、筑後川本川からですね、ポンプアップをして、水を持っていくダム群連携という事業を聞いておりますけども、これと一体的な整備をしないことには、この小石原川ダムの、この水源というのですか、水道というのですか、それは効果がないのではないかというふうに思うものですから。このダムだけ進めるのではなくて、ダム群連携とですね、一体的な整備をしていただくことによって、下流でですね、農業を営むものとしては、大いに効果があるというふうに思っておりますので、一体的な整備をお願いしたいということでございます。以上です。

○住民（3番）

みやき町の●●と申します。

この小石原川ダムということをはじめて聞いたのは、昨日一昨日なんですよ。ある住民の方からありますからと、とんでも無い、そんなことは今まではじめて聞いたということで、慌てて来たところではありますが、私は佐賀県の出資根拠が非常に不明瞭であると思えますね。数十億出資されるということで。というのは私はみやき町、筑後川を抱えた流域なんですよ。でここは有史以来、有利な、さきほど申されました有明海からのアオ用水、あの上からのアオ用水、上流あるいは有明海沿岸の水をですね、商業、工業あるいは農業用水に多大な影響をもって利用されている訳でございます。ところがみやき町になる前の旧三根町でございますが、この時点で筑後川大堰あるいは佐賀導水路というのが建設させられて、とにかく水の機能が特に農業機能については

その大堰の水を、大堰じゃなくて、佐賀導水路を利用しなさい、そしてそれが効率を生み出すよ
ということで、農民は泣く泣く説得に応じた訳でございますが、この平成7年頃アオ用水の放棄
ということで、有史以来のですね権利を放棄した訳です。これはやはり筑後川大堰のその有効性
がやはり福岡県の方に働いた結果、佐賀県は犠牲になった。特に筑後川流域の農家の方はですね、
そういうことを強く感じている訳でございます。

で、今回のダムということは、この筑後大堰にそれだけの利水それから治水、緊急時の安全調
整そういうものについての機能を果たしつつ、いったようでございますけれども疑問がありま
す。その中で筑後大堰を少々開放してもいいのではないかと。というのは、ただただ大水の調節
だけではなくてですね、三根町の大堰下流の支川がいっぱいあります。切通川、井柳川それぞれ
ありますけれどもその大潮の時はですね、有明海から水が上がってくる、水の行き先がないからで
すね、支流に上って来る、急激に、短時間で。そうするとその支流の流域はですね、田んぼが冠
水したり、生活道路が冠水したりしてるんです、現在。当初は考えていなかったと思うんですよ。
というのは大堰で止めて、久留米の水天宮、北野ぐらいまで上がっていたんですかね、大潮の時
上がっていたのが、それが行かないからですね、結局は大堰の下、下流の河川に流れ込んで、そ
ういような治水、いやあるいは利水じゃなくて、冠水のための大堰ではないのかということ数年
住民の批判がものすごくあるわけです。それについて私は、もしそのダムが完成すれば筑後大
堰をもっと開放して、そういうような住民が冠水しないような方法をとって頂きたい。というふ
うに思うわけです。大変長期に渡る多大な費用が要ると思いますが、そういうことも考えて有史
以来のアオ用水を放棄して、その上で今度は冠水するという非常に理解に苦しむ訳ですけどもい
かがでしょうか。以上です。

○住民（4番）

脊振から来ました●●と申します。

私もあの新聞で知ってですね、あの、来たんですけども。もうすでに4回開かれていることも
全く知らなかったんですね。ですから、もう少しあの、こういう説明会、検討会をされるのであ
れば、広く、こうなんというかな、前もって呼びかけて欲しいなと思ってます。

で、今分厚いやつをパーッと見たんですけども、全く読めないですよ、今渡されても。返し
てくれとなると全く検討できない。こういうものは何というんですかね。説明会でもなんでもな
いんですよ。

で、ちょっとあの河川部にですね、金曜日電話して聞いてたんですけど。小石原川の比流量は
いくらで計算してあるんですか。河川部の方に電話したんですけど、聞いてたんですけども。一
方、水資源公団の方で知ってあります？630トンかなんかさっき書いてあったんですけど、比流量
はいくらになってます？

こういう比較案がいっぱい出ているんですけども、洪水が前提になっているわけですよ。洪
水を過大に見積もって、こういういろんな計算をしても全く意味がないんです。というのがで
すね、今、昭和28年の筑後川の問題出てますけども、城原川ではですね、42mmしか降っていな
いんですよ。で、そのうち県があとで調べて300トンくらいしか流れていない。で、平成22年
に、と23年だったかな、あの城原が2回こう、かなり雨が降ったんですけども、60mmくらい降
っているんですよ。そのとき流れたのが440トンなんです。ところが建設省、国土交通省が言

っているのは780トンという言い方をしているんですね。全くあわないわけです。だから再計算をやるべきなんですよ、平成22、23年ということ。ですから、全くその信用できない、その数字そのものがですね。で、そういうデータを全部出してくださいと金曜日をお願いしてたんですけども、それは情報公開で取ってくれということなんですね、意見を言おうにもデータがなければ言えないんですね。

こういうのはですね、あの意見聴取会でもなんでもない。アリバイ作りですよ。とんでもないということですよ。以上です。